

新たな「札幌市教育振興基本計画」検討にあたっての現行計画の検証報告（平成25年4月現在）

幼児教育	指針	遊びを通して、人や自然と豊かにかかわり、自立と協同の基礎を培う幼児教育を推進します		
	計画	札幌市幼児教育振興計画		
基本的方向性		施策	現状の評価・課題	10年後を見据えた視点
基本的な生活習慣をはじめとした人間形成の基礎を培い、心身の健やかな成長を促す幼児教育を推進します		■特別支援教育の充実（幼児教育センターを核とし、各区の市立幼稚園を研究実践園化）	○ 研究実践園で成果を上げている特別支援をはじめとする先進的な取組や幼児教育に関する実践研究について成果と課題を発信するとともに、私立幼稚園における同様の取組状況を把握し、今後の研究実践園のあり方を確立する必要がある。	<input type="checkbox"/> 私立幼稚園、保育所との連携強化 <input type="checkbox"/> 子ども未来局と連携した子ども・子育て支援新制度への対応 <input type="checkbox"/> 認定こども園に移行した際の幼児教育の在り方の整理
幼稚園において、質の高い幼児教育を提供するとともに、保護者への啓発や支援に積極的に取り組みます		■幼稚園教育の質的向上 ■地域における保護者支援	○ 幼児教育講演会、幼稚園教育理解啓発事業（パネル展、にこにこフェスティバル、子育て情報ブック配付 等）においての家庭の教育力向上のための取組を私立幼稚園と更に連携を図りながら行う必要がある。	<input type="checkbox"/> 家庭の教育力を高めるための具体的な取組の推進 <input type="checkbox"/> 研究実践園の地域におけるセンター的役割の検討
幼稚園・家庭・地域の三者が、それぞれの教育力を発揮し、連携して、幼児教育を推進します		■保育所・小学校との連携強化 ■地域における幼児期の学校教育の推進	○ 未就学児の会や地域における相談体制の充実など子育てに関する様々な保護者支援策について検討を進め、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるような機会、環境をつくることが課題である。 ○ 各研究実践園に幼児教育支援員が配置されたことから、より地域の実態に応じた対応を行うための適切な相談体制のあり方を検討する必要がある。 ○ 幼児の実態を共有する幼保小連絡会、連携カレンダーの作成など、情報共有における地域の幼稚園・保育所・小学校の連携体制は構築されつつあるが、発達や学びの連続性を意識した連携、接続関係が構築されるよう、更に体制整備が必要である。	<input type="checkbox"/> 「家庭や地域の教育力の向上」や「教員や幼稚園を社会全体で支える」といった視点について、更なる補強が必要 <input type="checkbox"/> 町内会、商店街やNPO 団体など、多様な主体が幼稚園を支える仕組みづくり <input type="checkbox"/> 中学校区単位の幼保小連携体制など、地域の環境を生かした幼児期の学校教育推進の在り方の検討

義務教育	指針	確かな学力と豊かな心、健やかな身体を家庭や地域とともにはぐくむ義務教育を推進します		
	計画	札幌市教育推進計画		
基本的方向性		施策	現状の評価・課題	10年後を見据えた視点
知・徳・体のバランスのとれた教育を充実させ、確かな学力と豊かな心、健やかな身体をはぐくみます	■学ぶ力の育成（学び【知】の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「札幌市学校改善支援プラン」等を踏まえ、各学校において学ぶ力を育む取組は進められつつあるが、それらの内容や具体的な取組事例等についての周知不足により、取組が十分ではない状況も見られる。 ○ 学校教育の今日的課題に位置付けている「人間尊重の教育」「特別支援教育」「国際理解教育」「情報教育」は、各教科はもとより、総合的な学習の時間等を使って実施しており、効果を上げているが、地域との連携を進め、より効果的な取組にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> □学ぶ意欲を培い、基礎的・基本的な知識・理解及び技能の習得と、それらを活用した思考力・判断力・表現力等をバランスよく育む教育の一層の推進 □各学校が、学ぶ力・豊かな心・健やかな身体をバランスよく育む教育に自信をもって取り組むことができるような、教育委員会としての具体的な支援策の検討 □札幌市における「学ぶ力」について、市民ぐるみで共通理解を図り、育成する体制の整備 □教育のプロとしての専門的な知識や資質、実践的な指導力の向上を図るための研修や、札幌市教育研究推進事業の一層の推進 □少人数指導の推進等によるきめ細やかな教育の充実 □理科・科学教育の充実 □ICT活用による教科指導等の充実(教育コンテンツのデジタル化) □発達段階を踏まえた進路探究学習の充実 	
	■豊かな心の育成（こころ【徳】の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校・家庭・地域が連携・協力した地域との触れ合いやボランティア活動などの取組は各学校で行われているが、社会福祉や地域貢献の取組の充実を通じた豊かな心の育成が求められる。 ○ 一人一人の子ども理解を踏まえ、子ども自身が自己を肯定的に受け止めたり、不安や悩みを自ら解消していく方法を身に付けたりするなどして、自他のかげがえのない命を大切にすることを育む必要がある。 ○ 不登校は数・内容ともに深刻さを増している。その原因も、中一ギャップ、家庭の状況の不安定さや孤立化など様々であり解決の方法は一律でないが、心のサポーターの配置や教育支援センターの設置に向けての動きなど、対応策が進みつつある。 ○ インターネットの利用に伴うトラブル等への対応については、インターネットの利用に関するエチケットなど、情報モラル教育を推進するとともに、専門業者によるネットパトロールを実施してきたが、情報ツールが多様化や低年齢化の傾向が見られることから、情報モラル教育の一層の充実や、保護者等への啓発を進める必要がある。 ○ 薬物乱用や性の逸脱行動などに対する取組は進めているが、学校での取組には限界があり、実態の深刻さは見えにくくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> □子どもたちが地域社会のニーズに応える取組を通して、豊かな人間性や社会性を育むなどの観点から、地域と連携した取組を積極的に教育課程に取り入れる工夫 □個々の不登校児童生徒の状況に合わせた対応と地域社会との関わりを深める対策及び環境づくり □ネットなどを使った匿名性の高いいじめの増加への対応やいじめの兆候を見逃さない学校の取組の強化と思いやりの心を育む指導や家庭、地域社会との連携による対応 □学校、家庭、地域、関係機関の連携による少年非行対応 	
	■健やかな身体の育成（からだ【体】の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭教育学級など保護者の勉強会を通じて家庭教育力の底上げを行ってきたが、関心の薄い家庭に対する取組を強化する必要がある。また、子育ての関心の高い時期（子どもの乳幼児期）に取組を進めることが効果的である。 ○ 「子どもの体力向上支援事業」の実施結果等を踏まえ、体力向上に向けた調査研究を進めているが、子どもの体力低下の問題は深刻である。特に、 	<ul style="list-style-type: none"> □子どもが乳幼児期の保護者の家庭教育の必要性 □食育の一層の推進 □運動やスポーツを身近に感じる取組を通じた、体力の向上や健康に生活するための知識と実践力を育む教育の推進 □運動部活動の存続に向け、現職教員が顧問として活動しやすい環境づくりと退職教員及び地域の協力を受けやすい仕組みづ 	

		<p>運動する子としない子（女子に多い）の体力差が大きい二極化の傾向が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動部活動の存続に向けて、一部の学校では退職教員を活用した取組を進めているが、少子化に伴う学校規模の縮小等により、運動部活動の存続が難しい状況が今後も続くことが予想される。 ○ 学習指導要領改訂を踏まえ、格技場の整備を進めているが、敷地の状況などで制約のある場合がある。 	<p>くり □格技場の整備完了</p>
<p>札幌らしい特色ある学校教育を推進し、自立した札幌人の育成を目指します</p>	<p>■【雪】に関する学習活動の推進 ■【環境】教育の推進 ■【読書】活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、【雪】【環境】【読書】についての学習活動には、全ての学校が取り組んでいるが、さらにその地域特有の個性を活かした取組を工夫するとともに、教育課程への位置付けを明確にし、雪、環境、読書を中核とした、知徳体の調和のとれた学びを推進していく必要がある。 ○ 児童生徒や地域住民の環境意識の向上及び環境教育の推進、並びに二酸化炭素排出量削減等を目的として、いわゆる新エネルギーの学校への設置を進めているが、より効果的なものとするため、エネルギー源や設備等について検証が必要。 	<p>□地域との連携により、地域風土、社会的・人的・文化的環境を活かした「札幌らしい」体験的活動の充実 □札幌らしい特色ある学校教育三つのテーマや学校独自の取組をキーとして学校を中心とした地域連携の在り方の検討 □新エネルギーの学校配置についての在り方検討 □学校図書館の学習・情報センターとしての機能強化・充実</p>
<p>学校、家庭、地域がそれぞれの役割を尊重しながら、相互に信頼し合い、連携して子どもたちをはぐくみます</p>	<p>■信頼される学校の創造（新たな教育システム）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでも学校規模適正化の取組を進めてきたが、現在も少子化傾向は変わらず、小規模な学校が増え続けていることから、引き続き子どもたちの良好な教育環境の確保に努めるため、第2次地域選定プランを策定し、学校規模の適正化の取組を進める必要がある。 ○ 教職員構成における若手教員の割合の増加など、教員研修を通じた若手教員の育成が進められているが、今後も教職員全体の資質向上により一層取組む必要がある。 ○ 各家庭と地域のつながりが薄れ、家庭の教育力は確実に低下し、児童生徒だけでなく、保護者の教育までも学校が負う状況が生まれている。学校に対して協力的な家庭とそうでない家庭の差が大きい。 ○ 学校、家庭、地域の三者による連携は進んできているが、より一層地域の教育力を積極的に活用した教育を展開していく必要がある。 ○ 開かれた学校の推進では、家庭や地域との連携により、学校評価システムや学校評議員制度の活用が進んでいるが、さらなる学校運営の改善に向けて、学校、家庭、地域の一体感を醸成し、協働を進める必要がある。 ○ 校舎の耐震化、安全マップや緊急時の対応マニュアル作成などの危機管理体制の構築など、安全・安心な学校づくりは推進されているが、学校が避難場所になったときの具体的な方策や地域との役割分担などが不明確であり、震災等の有事を想定した体制の構築が課題。 ○ 札幌市においても、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」といった状況が見られることから、その解決に向け、より一層、幼小中の校種間連携が必要。 ○ 通学区域について弾力的運用を図りつつも、適正な学校規模や通学距離等を確保することにより、良好な通学、教育環境を提供するとともに、学校、家庭、地域の連携という観点からも、通学区域制度の適切な運用が必要となっている。 	<p>□今後も増加が予想される小規模校への対応など、基本方針の見直しも視野に入れた、今後の学校規模適正化の進め方の検討 □教員の資質向上 □「家庭や地域の教育力の向上」や「学校を社会全体で支える」といった視点について、更なる補強が必要（学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育を進める具体的な仕組みづくり） □地域での学校スペース有効活用 □地域における多様な人々との協働等を通じた地域と学校との相互信頼感の向上、市民ぐるみで子どもたちを育む雰囲気醸成 □地域人材や退職教員等の教育資源の有効活用を図る仕組みづくり □町内会、商店街やNPO団体など、多様な主体との協働による教育推進体制の仕組みづくり（地域活動コーディネーター） □地域に信頼される学校づくりに向けた、人と人とのつながりを大切に管理職人事配置の検討 □ICT活用による教員の情報共有の促進、校務の効率化 □防災教育の一層の推進 □地域環境の特性を踏まえた関係機関や地域との連携による防災対策 □原発事故を受けて、安全安心な給食の提供 □「子どもは地域で育つ」という観点に立った、幼小中高の校種間連携の仕組みづくり □通学区域制度の適切な運用</p>

高等学校教育	指針	進路を見据え、個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ高等学校教育を推進します		
	計画	札幌市立高等学校教育改革推進計画		
基本的方向性		施策	現状の評価・課題	10年後を見据えた視点
<p>基礎的・基本的な学力を重視し、国際化や情報化に対応するための能力を身につけるための教育を推進するとともに、生徒の個性を尊重し、多様な選択肢を提供します</p>		<p>■新たな制度の導入 ■国際教育・情報教育の推進 ■魅力と活力を高めるための環境づくり</p>	<p>○ 市立高等学校改革を通して、単位制や専門学科・専門コース、新しいタイプの定時制高等学校の設置など特色ある制度を導入し、市民に多様な選択肢を提供するとともに、国際教育や情報教育の充実に向けては、推進協議会を組織するなど、市立高等学校全体で共通に取り組む体制を整備した。</p> <p>○ 中・長期的な展望に立った採用や人事異動を行い、教職員の意識改革と資質能力の向上を図っている。</p> <p>○ 大学進学のみではなく社会において活躍するための基盤形成を目的とした市立高等学校改革の理念が、形骸化していくことが懸念されるため、管理職のリーダーシップや教職員のさらなる資質向上が必要。</p>	<p>□市立高等学校改革の理念を踏まえた「学びの場」のさらなる充実と発展</p> <p>□管理職のリーダーシップが発揮される環境整備</p> <p>□中高一貫教育校の設置による中高連携推進、意識の共有化</p>
<p>市立高等学校全体として将来の進路や生き方を考えさせるための学習や生徒を支援するための体制の充実を図ります</p>		<p>■進路探究学習の導入 ■カウンセリング体制の充実</p>	<p>○ 市立高等学校が連携・協力して、進路探究学習を推進したりカウンセリング体制の充実を図ったりする体制を整備しているが、個々の生徒が抱える課題が複雑化・多様化し、社会的自立に困難を抱える生徒が増加している。</p>	<p>□進路探究学習の定着に向けた、教員・保護者・地域住民が一体となった高等学校教育に対する意識変革</p> <p>□進路探究学習の定着に向けた企業等との連携推進及び生徒の社会的自立に向けた幅広い人材の活用</p>
<p>大学などの他の教育機関との連携により教育内容の充実を図るとともに、地域社会との連携などにより、学校・家庭・地域社会全体で豊かな人間性をはぐくむ教育を行います</p>		<p>■社会全体ではぐくむ教育</p>	<p>○ 市立高等学校が連携・協力して、高大連携に取り組み、教育内容の充実を図った。</p> <p>○ 学校に対する苦情が増加するなど、学校・家庭・地域社会の相互信頼不足が顕在化している。</p>	<p>□学校・家庭・地域が相互に信頼し連携できる仕組みづくり</p> <p>□除雪ボランティアなど、高校生が地域コミュニティの担い手となる取組の推進</p>

特別支援教育	指針	一人一人に応じながら、地域で、ともにはぐくむ特別支援教育を推進します		
	計画	札幌市特別支援教育基本計画		
基本的方向性		施策	現状の評価・課題	10年後を見据えた視点
一人一人の子どもの生涯を見直し、社会へつなぐための継続した専門的教育を推進します		<p>■一人一人が学び育つための早期からの継続した支援の充実</p> <p>■ゆたかに学び育つためのニーズに応じた専門的な支援の充実</p> <p>■安心して学び育つための関係機関と連携した総合的な支援の充実</p>	<p>○ 学校生活上での必要な支援を行うため、学びのサポーター活用事業を実施しているが、複数の対象者への対応や新入生等の対応で活動時間が不足している学校がある。</p> <p>○ 特別支援教育巡回相談員を配置して、通常の学級に在籍する発達障がい等の実態把握と学校支援を実施してきたが、より専門性を必要とする困難事例が増えている。</p> <p>○ 特別支援学級、通級指導教室などの増加に伴い、配置が必要な教員数も増加しているため、専門性や経験のある人材の確保が難しくなっている。</p> <p>○ 教育センターが中心となり、関係機関と連携した継続した相談体制の充実を図るとともに、幼児期からの子どもの状況をファイルし、保護者、学校、関係機関が情報を共有し、進学や相談時に活用する学びの手帳などの取組等を推進してきているところであるが、一人一人に応じた特別支援教育をより一層推進していくためには、これまで以上に幼児期から卒業後まで一貫した適切な教育的支援と、そのための教育環境の整備を進める必要がある。</p> <p>○ 北翔・豊成養護学校においては、看護師配置事業を実施しているが、医療的ケアを必要とする児童生徒の障がいの重度重複化が見られており、学校、保護者、看護師の連携による医療的ケアの実施体制の充実を一層進める必要がある。</p> <p>○ 豊明高等養護学校においては、必要に応じて、間口増等の対応を行ってきているところであるが、今後も道教委と協議しながら、出願者の増加に対応する必要がある。また、卒業後の就労状況が伸びないことから、教育内容の見直しを進めるとともに、企業等との連携強化も進める必要がある。</p>	<p>□一人一人の子供のニーズに応じた多様な教育の展開</p> <p>□教師間の綿密な連携、幼・小・中・高間の指導の継続性による、乳幼児期から学校教育終了後の社会への移行期までを見通した教育的支援の一層の充実</p> <p>□障がいの状態等に応じた弾力的かつ専門的な教育的支援の展開</p> <p>□就労につなぐための教育内容の見直し及び地域社会、企業、NPO 法人等との連携強化</p> <p>□教育、福祉、医療、労働等が互いに連携し、総合的に支援していく仕組みづくり</p> <p>□インクルーシブ教育システムの構築を視野に入れた「合理的配慮（学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮、学習機会や体験の確保など）」や「基礎的環境整備（連続性のある多様な学びの場、専門性のある指導体制の確保など）」についての検討</p> <p>□通常の学級における医療的ケアの在り方検討</p> <p>□札幌南部における高等養護学校の設置検討</p>
地域で学び育つための家庭・学校・地域がともにはぐくむ教育を推進します		<p>■地域で学び育つための家庭・学校・地域が一体となった支援の充実</p>	<p>○ 学校生活上での必要な支援を行うため、学びのサポーター活用事業を実施しているが、複数の対象者への対応や新入生等の対応で活動時間が不足している学校がある。（再掲）</p> <p>○ 特別支援学級は、簡易整備により開設する方式を導入してきたが、スペースの確保が難しく設置ができない場合や、予算上の制約から後年度の本格整備が計画的に実施できない状況にある。</p> <p>○ 特別支援学校に通う児童生徒の居住地校との交流として地域学習を実施しているが、内容面で充実を図っていく必要がある。</p> <p>○ 発達障がいについてのリーフレットを作成して保護者に配付するなど、理解啓発の取組を実施しているが、今後もより一層理解が進むような取組を継続する必要がある。</p>	<p>□地域における多様な学びを支援するための教育環境の充実</p> <p>□家庭、地域、学校がそれぞれに適切な役割を果たし、連携を図りながら、一体となって障がいのある子どもの教育を推進していく仕組みづくり</p> <p>□インクルーシブ教育システムの構築を視野に入れた「合理的配慮（幼児児童生徒・教職員・保護者・地域の理解啓発を図るための配慮、校内環境のバリアフリー化など）」や「基礎的環境整備（施設・設備の整備、交流及び共同学習の推進など）」についての検討</p>

生涯学習	指針	子どもから高齢者まで、市民一人一人の学びや活動を支援し、その成果を活かす生涯学習を推進します		
	計画	第2次札幌市生涯学習推進構想		
基本的方向性		施策	現状の評価・課題	10年後を見据えた視点
市民のさまざまな学びを多角的に支援するとともに、市民が生涯にわたって学べる環境づくりを進めます		<ul style="list-style-type: none"> ■市民が生涯にわたって学べる環境づくり ■全ての人が参加できる学習環境の充実 ■社会的な課題と市民ニーズに対応した学習支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習推進の中核施設である生涯学習センターを拠点に、体系的な学習機会である「さっぽろ市民カレッジ」の開講など、全市的な生涯学習の推進や生涯学習の裾野拡大は進んだが、今後、区・地域レベルでの、生涯学習のよりきめ細かな環境づくりが課題である。 ○世代ごとの学習機会の提供は、各部局で行われており、特に子どもや高齢者を対象とした事業は多いが、世代横断的な取組は少ない。 ○基礎・入門レベルの学習機会は各部局で行われているが、まちづくりの専門的な人材の育成など、高度なリカレント教育（高等教育レベルの実践的・専門的な教育）への取組が不足している。 ○環境、防災、福祉等、地域の個別課題に対応した啓発事業や講座は各部局・区で取り組まれているが、地域の諸課題を有機的・総合的に捉え、地域全体の課題解決を考える取組は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> □生涯学習センターと区・地域との連携による地域生涯学習推進のための環境づくり □世代横断的な取組の拡充と、地域における学習機会のアンパランスの解消 □大学、企業等と連携したリカレント教育の推進 □多様な市民ニーズや地域の総合的な課題に対応した総合的な学習機会の充実 □大学との連携による新たな生涯学習プログラム創造
			<p>【図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な資料の収集、レファレンスサービスの充実、電子媒体による情報提供の推進により、提供する情報の充実や情報化の進展への対応を図る必要がある。 ○図書館の魅力や機能を高めるとともに、積極的な広報による図書館利用者を拡大する必要がある。 ○高齢者や障がいのある方を含め、誰もが気軽に快適に利用できるよう、施設のユニバーサル化やサービスの充実を図る必要がある。 ○子どもが生涯にわたり読書をする習慣が身に付くよう、読書環境の充実を図る必要がある。 ○時代の変化にも対応しながら、サービスを維持・発展させることができるよう、業務の効率化や人材の育成を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> □「新たな文化との出会いの場の提供」「誰もが利用しやすい施設の整備とサービスの充実」「子どもの読書環境の充実」により、市民の自主的な学習意欲を高め、新しい活動を醸成していく。 □「積極的な情報発信」「市民との協働」「将来に渡って持続可能な図書館運営の構築」により、市民とともに成長する図書館を実現 □「幅広い分野の資料の収集」「分かりやすく使いやすい情報提供」「電子サービスの充実」により、図書館として求められる機能やサービスを高めていく。
市民の学びの成果を、札幌を支える人づくり、活力ある札幌のまちづくりに活かします		<ul style="list-style-type: none"> ■学習成果を活かした社会参画の推進 ■地域のまちづくりへの活用 ■活力ある札幌のまちの創造 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己還元的・自己充足的な学び（個人としての学び）から社会還元的・公共的な学び（社会的な学び）へ移行させる仕掛けが必要である。 ○人材育成・養成に関する事業は各部局で実施されているものの、育成した後の人材の活用、地域のニーズとのマッチングなど、育成から活用（実践、活動）へどのようにつなげるかが課題である。（コーディネート機能の強化の必要性） ○学んだ成果を活かせる場が不足（そのような場に関する情報の不足も含む）している。 	<ul style="list-style-type: none"> □市民の学んだ成果を地域やまちづくり等に活かす仕組みづくり □学習成果を活かせる場の整備・充実 □まちを担う人材育成

<p>市民同士が学びをとおしてつなげる機会を充実させ、学びのコミュニティ創出を図り、さらに、地域における自発的な学びと高度な学習ニーズに対応した学びを支援し、継続的な「学びと実践の循環」の仕組みづくりを進めます</p>	<p>■学びを結ぶ人材育成と相談体制の充実 ■生涯学習関連施設の連携強化 ■多様な主体との連携による生涯学習の展開</p>	<p>○ 例えば、講座を終了した市民がその後、自主的に学習サークル・グループを結成し活動するなどのように、学びの継続化が図られ、かつ、その学びの成果が何らかの形で地域で活かされる「学びと実践の循環」が行われる環境づくり・仕組みづくりが課題である。</p> <p>○ ゆるやかな学び合いの輪（学びを通じた柔らかな組織化）が、地域課題の解決やまちづくり実践と絡みながら、地域において自然な形で多様に創出される必要がある。</p> <p>○ 市民の多様な学習ニーズに対応するために、生涯学習関係施設・教育施設間の連携、地域と地域生涯学習関連施設との連携などが活発に行われることが望まれる。</p>	<p>□生涯学習推進のための施設間連携、地域と諸施設との連携にかかる体制の充実 □時代の変化に対応した生涯学習施設機能の見直しの継続 □札幌ならではの学びの高度化 □学びと実践の継続的な循環を促すコーディネーター（施設職員）の育成 □地域における生涯学習促進のための「中間支援」機能の構築 □「学びのコミュニティ」形成を促す役割を果たす中核的人材（グループ内リーダー）の育成・支援</p>
---	---	---	---